

# 山形大学 男女共同参画報告書

令和2年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)活動報告  
及び事業成果報告

令和2年度山形大学活動報告

work  
life  
balance  
innovation

# 山形大学 男女共同参画報告書

令和2年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)活動報告  
及び事業成果報告  
令和2年度山形大学活動報告

work  
life  
balance  
innovation

# 目次

ご挨拶 山形大学長 .....	04
ご挨拶 山形大学理事・副学長／男女共同参画推進室長 .....	05

## I. 山形大学独自の取組

<b>① 第2次男女共同参画基本計画に基づく行動計画と推進組織</b>	
①-1 目的・基本方針・令和2年度具体的施策（行動計画） .....	06
①-2 男女共同参画推進委員会委員名簿と委員会議事 .....	11
①-3 男女共同参画推進室員名簿と室ミーティング議事 .....	14
①-4 男女共同参画推進室米沢分室員名簿と分室会議議事 .....	15
①-5 「多様な性に関するガイドライン」の策定 .....	16
①-6 男女共同参画推進室活動記録 .....	26
<b>② 活動報告</b>	
②-1 意識改革	
(1) 学長・学部長と教職員等とのワーク・ライフ・バランス懇談会、研修会 .....	28
(2) 男女共同参画フェスタ（米沢分室含む） .....	29
②-2 仕事と育児等との両立支援	
(1) 小白川キャンパス保育所のびのび .....	30
(2) 小白川キャンパス保育所つぼみ .....	31
(3) 医学部保育所すくすく .....	32
(4) 医学部病児保育室 .....	33
(5) 荘内銀行キッズワールドあゆみ .....	33
(6) 託児サポーター制度（学童の一時預かり） .....	34
(7) 研究継続支援員制度・学会参加時の保育支援制度 .....	34
(8) 相談制度 .....	35
②-3 女性研究者の裾野拡大	
(1) 女性研究者裾野拡大セミナー .....	36
(2) 山形大学女性大学院生ネットワーク .....	38
(3) 女子中高生理系進路選択支援事業 .....	39
(4) 令和2年度基盤教育・ジェンダー関連授業 .....	41
②-4 アウトリーチ活動 .....	43
②-5 広報活動等 .....	45

## II. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)の概要

① 事業の概要 .....	46
② 実施体制 .....	47
③ 取組内容 .....	48
④ 令和2年度事業計画 .....	50

## III. ダイバーシティ事業の活動報告

<b>① 連携体制の推進</b>	
①-1 ダイバーシティ連携推進会議名簿・会議議事 .....	52

<b>② ネットワーク</b>	
②-1 山形大学COI（フロンティア有機システムイノベーション拠点）	54
②-2 大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」	55
②-3 全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック（南東北会議）	56
<b>③ 意識改革</b>	
③-1 男女共同参画セミナー	58
③-2 3機関合同シンポジウム	58
<b>④ 研究とライフイベントとの両立支援</b>	
④-1 研究継続支援員制度	64
④-2 夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育利用料補助制度	65
④-3 ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度	66
④-4 相談制度	66
④-5 託児サポーター制度	67
<b>⑤ 女性研究者の研究力向上</b>	
⑤-1 サービスデザインプロジェクト	68
⑤-2 女性代表共同研究費支援制度	69
⑤-3 英語論文の書き方セミナー	71
⑤-4 外部資金獲得セミナー	72
⑤-5 自己啓発合宿	73
⑤-6 女性研究者研究成果発表会	75
<b>⑥ 女性研究者の裾野拡大</b>	
⑥-1 JOIN交流会	76
⑥-2 博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー	76
⑥-3 連携機関留学プログラム	77
<b>⑦ 広報活動等</b>	78
<b>⑧ 評価</b>	
⑧-1 外部評価委員会名簿・委員会内容	79

## IV. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)の6年間の事業成果

6年間の事業成果	85
----------	----

## V. 資料編

① ダイバーシティ事業3機関の進捗状況	92
② 山形大学の男女別教員数と女性割合	104
③ 山形大学の女性活躍推進法に基づく行動計画	105
④ 山形大学の次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定について	106

## ご挨拶



### 玉 手 英 利

山形大学 学長

今年度より学長に就任しましたので、よろしく申し上げます。

「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」。これが山形大学の3つの使命です。人口減少や国際競争の激化など、社会が直面する多くの課題のみならず、人類社会の諸問題を解決するため、豊かな人間性と問題解決能力を高める「教育」、革新的技術や新たな思想を生み出す「研究」を推進して、社会の持続的発展に貢献していきます。

令和2年は、新型コロナウイルスという新たな危機に直面した年でした。人類の歴史においてパンデミックは何度か起こりましたが、そのたびに、人々は新しい治療法や予防策を見つけ、危機を乗り越えてきました。今回も必ず克服することでしょう。しかし、そのためには、グローバル化された社会での感染拡大という、これまでの歴史では無かった「想定外」の問題を解決する新たな答えを見出さなければならぬと考えています。そのような中、本学は、地域のSDGsの取組を積極的に支援し、社会の持続的な発展に貢献していくことを宣言しました。SDGsの「ジェンダー平等」は分野横断的に重要な位置付けになっており、本学の使命を果たしていく上でも男女共同参画・ダイバーシティの推進は極めて重要だと考えています。

令和2年4月、第2次山形大学男女共同参画基本計画（計画期間は令和2年度から令和11年度までの10年間）が施行されました。山形大学は、平成22年に策定された山形大学男女共同参画基本計画により、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進し、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ってきました。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」（平成21～23年度）や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（連携型）」（平成27～令和2年度）の採択を経て、研究・就業環境の整備を行ってきました。第2次基本計画には、これまでの10年間の成果を踏まえ、我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、基本方針及び具体的な施策が掲げられています。早速、「多様な性に関するガイドライン」策定などの新たな取組を計画的に進めております。

また、今年度は「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の最終年を迎えました。大日本印刷株式会社研究開発センターと山形県立米沢栄養大学を連携機関として、3機関の密接な連携体制の下で女性研究者が活躍できる環境を整備し、特に理工系の女性研究者の増加と上位職への登用を図ってきました。その様々な事業成果は、本学のダイバーシティ研究環境のグレードアップに繋がるとともに、南東北にまで波及することができたと自負しております。6年間にわたりご指導いただいた科学技術振興機構のプログラム主管 山村康子様はじめ、連携機関の皆様にご改めて感謝申し上げます。

新執行体制に変わりましたが、学長自ら先頭に立ち、第2次基本計画に基づき、本学の学生及び職員が性別、性的指向・性自認等にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を發揮できる大学を目指すとともに、他大学や地域社会とのネットワークを充実させ、男女共同参画及びダイバーシティを積極的に推進してまいります。関係各方面の皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

## ご挨拶



### 小 島 浩 孝

山形大学理事・副学長  
男女共同参画推進室長

山形大学男女共同参画推進室の事業に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。ここに、令和2年度山形大学男女共同参画報告書をお届けいたします。この報告書では、文部科学省科学技術人材育成費補助事業である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の活動報告も合わせて行っております。

今年度、男女共同参画推進室長に就任いたしました。一年を振り返ると、新型コロナの影響で男女共同参画セミナーや男女共同参画フェスタを残念ながら中止しましたが、オンライン会議や在宅勤務が定着し、新しい活動様式を取り入れながら全般的に有意義な活動を行うことができたと考えております。

まず、今年4月に第2次山形大学男女共同参画基本計画を施行しました。第2次基本計画は令和2年度から10年間を計画期間とし、男女共同参画に加えダイバーシティを一層推進することを目的に、基本方針及び具体的施策が定められました。女性教員比率や女性管理職比率についてはこれまで以上に高い目標を設定し、「無意識のバイアス」や性的指向・性自認等への配慮なども明記されています。初年度にあたり、男女共同参画推進委員会を3回開催し、各キャンパスが年度計画を作成して取組を進めてまいりました。そして、ほぼすべての事業や支援制度を計画通りに行い、「無意識のバイアス」セルフチェックの導入や「多様な性に関するガイドライン」策定などの初年度の計画を実行することができました。

さて、山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学の3機関は、平成27年度にダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）に採択され、連携して取組んでまいりました。事業前半の3年間で環境整備を終え、事業の目標を達成しているという中間評価を得ました。事業後半では、山形大学が誇る有機エレクトロニクスを技術基盤とする山形大学COIと連携を強化し、学内の幅広い分野の女性研究者が未来の生活創造に参画する取組に発展してきました。今年度は最終年度でしたので、6年間の事業成果報告のための3機関合同シンポジウムをCOIと共催して開催し、学内外の皆様と成果を共有するとともに、3名の外部評価委員より高い評価をいただいたところです。同シンポジウムのⅡ部では、昨年度に引き続き、COI若手・女性研究者交流会を開催しましたが、事業終了後も継続していくことになりました。

また、平成30年度より、県内15の高等教育機関が参加する「大学コンソーシアムやまがた」に「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」を設置し、全国ダイバーシティネットワーク組織の幹事大学として南東北のネットワーク構築に取り組んでまいりました。今年度は、南東北の6機関の学長等による「ダイバーシティ環境実現共同宣言」が実現し、県内7機関が全国ネットワークに参加するに至りました。これらは目標を超える成果であり、今後の展開が期待されます。

結びになりますが、第2次山形大学男女共同参画基本計画がスタートし、ダイバーシティ事業が終了することに伴い、教育・研究や就労と家庭生活との両立支援を充実させるため、令和3年度以降の支援制度の見直しを行いました。米沢分室は継続することになりましたが、男女共同参画推進室も節目を迎えていると思います。第2次基本計画では、推進体制について、「学長のリーダーシップの下、男女共同参画推進委員会が決定し、推進室と各キャンパスが連携協力し、一体となって事業を推進する」と記載されています。これからの新たなステージで前進していくために、全教職員のご理解とご協力を一層宜しくお願いいたします。